



わかひさ便り

2015. 6. 8

わかひさ保育園 園長 井上國康

はじめに

若葉が一層色鮮やかになるこの季節は心も鮮やかに蘇るような気分になるものですね。さてこの便りは初めて出します。保育園や幼稚園・学校は子育て中の保護者の方々がそれぞれの思いを抱いて出会い、交差する場・情報交換する場でもあります。少しでもその媒介の役に立つことになればと思い、そのときどきで気づいたことに関して、不定期で出すことにしました。

4月に絵本を 100 冊ほど購入しました。その購入先の絵本専門店店長さんの話し「今の子はすぐ『出来ない』と諦める。それは最近の子供の生活体験が少ないことにあります。絵本の読み聞かせで言葉の心地よさを伝えて欲しい。本の中での疑似体験が想像力を育み自信につながります」と語られていました。

私も経験から自然の中で思いっきり遊ばせ、いろんな体験をさせることが自立した大人になる必要条件だと思います。しかし生活・社会環境の変化で遊ぶ場所が限られている、時間の制約など昨今の事情からこの絵本店の店長さんの言葉は十分頷ける内容だと思いました。

先日乳幼児の保育について興味深い記事「愛が育てる赤ちゃんの脳」が日本版ナショナルジオグラフィック誌にありました。(この一部は4月1日入園式で話しました)。概略を紹介します。

米国ワシントン大学で生後 9 ヶ月の赤ちゃんを A、B、C 三群に分けて調査をした。A 群は中国語がネイティブの保育士が遊び相手をし、絵本の読み聞かせなどの保育をし、B 群は同じ保育士が中国語を話す映像を見せ、C 群は録音した音声だけ聞かせた。全てのグループに 12 回のセッションを受けさせたのち中国語の音声を聞き分けられるかテストした。事前の予想ではビデオを見た B 群も保育士と顔を合わせた A 群とさほどの有意差はないだろう考えられていましたが、実際は予想に大きく反するものでした。A 群の子供は脳が活発に反応し B、C 群は全く反応しませんでした。

このことは何を意味するのでしょうか。

赤ちゃんの脳は人との生身の融合いの中でこそ発達すると同誌は結んでいます。人間関係を構築する中でこそ感覚、知覚、記憶などの脳細胞は作られる、これを人間関係入口論(仮説)というそうです。

乳幼児期は活発に脳細胞が作られている大切な時期で、 (裏面に続く)

1年が一生を左右します。テレビ、スマホ、ゲーム機など電子メディアに子育ての一部を肩代わりさせる行為が危険であることはよくお分かりだと思います。親子の触れ合いの時間を十分とって愛情をたっぷり注ぐことが今も昔も子育ての最良の方法なのです。すると子供は安心して自立していきます。

南 区の主婦の方が書かれた微笑ましい新聞記事「じゅうでん」を紹介します。

昨年の年間紅血盤と多読した読者投稿「じゅうでん」(11月26日付朝刊)を読んだとき、冬の朝、温かいココアを飲んだような気持ちになった。そして、親子の大切な場面を伝える「教育」コラムでもあると思つた。

「自尊感情」。学校の先生たちと話していると、そのキーワードはよく出てくる。「自分が自分であって大丈夫」「生きていること、そのこと自体に意味がある」。平たく言えば、そんな感情だ。

「自己肯定感」ともいわれる。自己中心のわがまま(自己チュー)や自己愛とは違う。自分自身をかけたえのない存在として捉える肯定的な感情とされる。

不登校やいじめ対応、学級づくりで、子どもたちの自尊感情が一つの鍵を握っていると、学校現場では考えられている。では、自尊感情はいつ、どんな場面で育まれていくのか。

その場面こそが、お母さんが7歳の娘を抱き締める「じゅうでん」だった。

「おかあさん、じゅうでんして」。夕飯の支度をしていると娘が真面目な顔で頼みに来た。「いいですよ」と両手を広げると私の胸で

れとも友達とけんかしたのかな。思いをめぐらせ、反省もしながら、娘の心が満タムになるように心を込めて抱き締める。

もう、私のみぞおちの辺りまで背が伸びている。私が彼女の充電器になつてあげられるのはあと何年だろう。「おかあさん、いいにおい。げんきになつてきたー」と笑顔になつて私を見上げると充電完了。乗らかな髪をなでながら「またいつでもじゅうでん」と言うとき、再び外の世界へ飛び出していく。(後略)

井上智佳子さん、主婦・37歳、福岡市南区

児童心理学では「無条件の受容」と言われる。どんなことがあっても最後、私はあなたを受け入れる。そんな安心感や心情を幼少期、どれだけ体感できたかで、自尊感情の育まれ方も変わってくるのだという。教育担当として、そんな取材をしていたものだから、「じゅうでん」をじみじみと読んだ。

自由帳



「無条件の受容」の安心感や心情を幼少期に体感することで、自尊感情が育まれていくのだという

子どもの心「じゅうでん」して頂けますか 自尊感情育む触れ合い

西日本新聞 2015.3.31

- このお便りでお知らせしたいことをもう一度まとめます。
- 一つ、自然の中で思いっきり遊ばせいろんな体験を疑似体験も含めてさせて下さい。
 - 二つ、親子の触れ合いの時間を惜しまず愛情をたっぷり注いで下さい。